

映画「マッシュルーム」 撮取のおすすめ

北川 公子



1996年、新宿で上映された「マッシュルーム」というオーストラリア映画をご覧になりましたか？その名のとおり、マッシュルームが出て来るんですよ。どこに出てくるか…。

舞台は町外れの下宿屋。経営者の2人の老婆（ミニーとフロー）はそれぞれ夫を亡くし、万引きを糧として毎日を過ごしているところへ、1人の凶悪強盗犯が逃げ込んでいます。警察が追って来ますが、2人は盗みがばれるのを心配して隠匿。次は引退間近のベテラン警官（ハリー）が犯人捜査のために下宿することに。犯人は部屋に居坐り、ガス暖炉をつけたまま寝てしまいますが、予期せぬガス管修理のため火は消えてしまいます。それを知らずに2人が部屋を見に行くと、犯人はガス中毒で死亡していました。

さあ、ここからが大変。本当の事故死なのに、日ごろの行いが炎いて警察に、ましてやハリーにも届けることができません。しかも犯人隠匿の罪も。思案の末、ミニーにとてもよいアイディアが。なんと“食べちゃう”ですって！これを聞くと、ぎょっとしてしまうかもしれません、これがこの映画のすごいところ、あまり気持ち悪さを感じさせず、とってもコミカル。お風呂場でなんなく解体して、すべて冷蔵庫へ。こうなるとただのお肉？

ほっとしたのもつかの間、ハリーは家中を嗅ぎまわっています。しかし、彼はまだなにも知らず、出された肉料理をうまいといって食べ、彼女等も変に思われまいとして一生懸命に食べます。けれども、ちょっとやそっとで何十キロものお肉がなくなるわけがなく、フローはいつばれるかと気を揉み、躍起になって、今度は鶏に餌として与えます。鶏はすくすく育ち、卵を産み、またそれが孵って…どんどん増えていきます。

証拠は食べられながら次々と消えていくのですが、鶏が出るのは卵だけではありません。

そう、排泄物も溜まります。ハリーはそれをバラの肥料として与えようしますが、心配症のフローは、排泄物からなにか証拠が出やしないかとノイローゼ状態。そこで、ミニーがくれたものがマッシュルームだったわけです。マッシュルームが単なる食材としてではなく、分解者として登場するなんて、とても素晴らしいと思いませんか？

このあと、気疲れしたフローをミニーは町教会での結婚式に誘うのですが、この花嫁衣装がとてもゴージャス。前代未聞マッシュルームの帽子にマッシュルームの花束。（そうそう、きのこはかびの花でしたよね。）数秒しかでてこないのですが、ひだの色にも注目です。

何もかも消えて完全犯罪と思いきや、2人の留守中、ハリーは2人の夫等の祭壇に、唯一料理できなかつた歯を、その他にもいくつかの証拠をみつけます。後日すべて犯人のものと確信できたのですが、2人の見事さに脱帽、個人的感情も手伝って、起訴しないまま警官を引退することを決意します。

忘れてはいけないのが、生きた鶏とマッシュルーム本体という証拠。時はクリスマス。2人の家で今年の警察パーティーが開かれ、証拠はご馳走として振舞われました。パーティーの席で、2人はこれまた逮捕されるに至るのですが、思わぬほうに話は展開してクリア。

ハリーは事件後も下宿人として居着き、3人は自家製材料の店を出しました。おすすめメニューは、マッシュルーム入りのオムレツですかね。

この映画のビデオが出ています。15,800円+税とかなり高めですが、観おわったあと、とてもふくよかな気持ちになり、必見の価値あります。ちなみにレンタルにはでていません。

秋の夜長、あなたはマツタケ？それともマッシュルーム？